

— 世界子ども絵本展に行き—

私は世界が大好きで、かつ、言語にも少し興味があったので、この企画はすく私にぴったりのものだったので、お知らせを見たときは嬉しさと楽しみでいっぱいでした。

でも、正直、世界の本当のことは、言語が違ふのに、どうやら、調べばいいのかなと思っていたところもあったが、実際、色々な国の本を手にとってみると、言語がわからなくてもすく夢中になれる本があり、自分でもびっくりしました。

その秘密は、「絵本」の絵にあつたと思います。絵を見てわかることも沢山あることを知つたこの展示会。世界様々な国の人々が描いた絵を見ていると、例えば、人の絵だったら、地域によって、思つたり、白かたり、又、それぞれのお土地の気候がわかるとな服装をきていたり、... と他にも色々な発見がありました。

又、色使いにも少し違いを感じました。おそらくこれは月几の色に関係していると思ひますが、アフリカなどの暑いところでは、1つの絵に色々な色が使われていたのに対して、ヨーロッパやアジアの方では、使われている色の数が多いように見えました。とても面白かったです。

そして、本には、時代や、文化、その国の歴史などが分かる本も多かつた中には、読むと心がか少し痛くなるものもありましたが、それでも、絵でやさしく表現するなどして、工夫されていると思ひました。

又、何冊かは、まとめてあつたポップのみよんだものもありましたが、「14歳」という本のポップを見たとき、以前私が読んだ「15、12歳の秘」というスウェーデンの本なのだが、それと似た内容について、その2冊は、いじめと友達関係のお話なのだが、それを讀んだとき、いじめや、友達関係の悩み、というのは、どこの国でもあるのだ、と思ひ、おかげで、世界一丸となつて、大抵皆い人が少なくなるようにできたらいいなと思つた。

又、ヨーロッパと日本の絵では、西洋画と日本画があるように、これは大違つたよこがそれぞれあつて、面白かつた。

このような機会はないので、またあ、ぜひ！ もと沢山の世界の本を

ゆくりよみたいと思つた。

JBBY

気に入った本 ベスト3!

- ①. いのちの木
- ②. 완사당 (あめだま)
- ③. ドームがたり

① キツネが木になってどんどん大きくなっていくところが素晴らしい
思い出をつづつ言うごとにどんどん大きくなるという設定がよかった。
読みながら、自分との思い出を語り続ける人がいること、自分の死を
悲しいと思ってくれる人がいること、幸せなことだなと思った。
自分も、死んだ時や、病気になった時にこんな風になっていたら
いいなと思った。又、今でも、伝記として残る人達は、このキツネと
同じようなことがあるのでは? と思い、将来、自分を未来に何かを
残し、自分の姓が物としてのこれはいいなと思う(例えば、
作曲家や、科学者達のように) ^人色々考えさせられる本だったので、
短い絵本だけれど、
もと沢山の国の人によってほしいと思ふ

② この絵は、韓国の和紙人形であり、韓国ならではの
おもむきや、雰囲気をもたよわせており、^{絵本} ^{世界物} ^{を見ても}
その国の時代や文化、歴史の背景がわかるように面白く
気付かされた。

世界の本を読むとすると、言語がわからないと読めないうち
いたが、絵で楽しく読書というのも、大きな意味がある
と気付かされた。新しい読書の楽しみ方を発見することができた!

③ これは、広島を舞台にした作品で、日本の歴史をやさしく語って
そのドームに、この本の中では素朴な感じがあり、子どもでもよみやすい。
更に、日本以外の国の人にも、済し広島原爆を知ってもらう機会となる本
だと思った。もと色々な国で、読んで、沢山の国の人によってほしい